

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200574		
法人名	医療法人社団 拓己会		
事業所名	多機能ホームながつる グループホーム (えがお・きずな合同)		
所在地	静岡県浜松市東区長鶴町249番地		
自己評価作成日	平成28年1月17日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&IjivovoCd=2297200574-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は開設3年目の年であり、より日常生活の場において、生活者視点を大切にしたい関わりをもつことに重点を置いてきました。そのために、従来の生活様式や個人の価値観・経験を尊重し、その中から継続して行えること、暮らしの知恵等を引き出す関わりを強化しました。施設においては、様々な行事があり、それは過去からの習慣を活用できるものとしています。行事・日常生活共に、利用者職員が共同して物事に取り組みことを大切に考えています。当施設は経営母体が医療機関であるため、利用者様の健康状態維持や変化時の対応がタイムリーに行える体制もあり、最期まで安心した環境で生活頂ける特性も持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人という強みがいかに発揮され、管理者も看護師ということもあって病院との連携が密で利用者の心身状態の変化を日々医師、看護師長と共有しています。花壇を眺めることのできる広いデッキではバーベキューで賑わい、ほかにも生活習慣を意識した伝承レクリエーションが多样で、しめ縄づくり、おせち、正月飾り制作と時節に沿い、また主体性を重んじた支援として畑では種まきから収穫まで利用者に職員が教えてもらいながら「できることはできるように、できないことだけ支援する体制で」、丁寧に一日一日を送ることができている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に、法人理念及び自施設理念についての説明機会がある。管理者は、職場会議を用いて職員と施設の在り方について話す機会を作っている。	教育体制が整っていることから新任者も理念について理解できるようになっています。職員間で話し合うことを大切にしており、自分で考え、評価し合い、心で実施することで浸透が図られていると管理者は考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加(秋祭り等)を得たり、施設行事にも協力を得ている。	地域の広報にはイベント案内を載せてもらえ、近隣のコンビニエンスストアからは普段の交流のほか施設の発見にも声がかかり、折り紙や川柳、民謡、コーラス、三味線と月に5回以上のボランティア訪問があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の場を開放し、施設内での認知症を持つ利用者の暮らしを知ってもらったり、介護方法や資源の相談にも気軽に応じられるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では日々の活動報告を写真等を用いて紹介したり、利用者に関わりを持ち現状を理解してもらう機会を確保している。その上で、必要な助言を受けている。	年間の予定を予め連絡して出席者を増やす工夫をし、現在は家族のほか行政・地域からも集ってくださっています。行事と併催企画で運動会に参加してもらえたり、話し合いからADE講習会も決まり活発さが覗えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を利用して、事業所の実情伝達や助言をうける場をもっている。必要に応じて、管轄の区役所の介護保険課に相談する機会ももっている。	事業所では運営推進会議の議事録の提出だけでなく、わからないことがあれば足しげく区役所の窓口に出向き、また市役所からも案内が細目に届き、小さなことでも聞いたり相談したりしやすい関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や自己の振り返り機会の確保、拘束に当たる可能性が考えられるケースについては、職場会議にかけ、代替方法の検討を行っている。玄関施錠は施設の立地状況もあり行っているが、要望に応じて職員と戸外に出られる状況確保はなされている。	ゼロ宣言をしていますが、周囲は交通量が激しくフロアの職員構成により施錠することもあります。骨折にはベット柵が付くことありますが細かな点も協議し、家族にも理由を添えて説明し、一時性・非代替性・切迫性に準じておこなうことで職員も理解を進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を主に学習機会をもち、その上で日常業務における対応の妥当性を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度活用者はいないが、法人内の相談員等と連携を持ち、その必要時に対応できる体制づくりはとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時の契約、報酬改定に伴う変更事項について、書面を用いて十分な説明をし、了承を得ている。契約後の疑問点についても、随時説明をし、理解が得られる状況を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にご意見の受け付けや対応体制があることを十分に説明している。その上で、家族会実施による意見交換機会の確保や、ご意見箱を設置し、要望・質問にタイムリーに対応するように努めている。	本年も予定する家族会は、「家族が知りたいであろう内容をテーマに話し合うことで親和につながる場」として確立し、今回はオムツです。コストは勿論、「なぜこれを使うか」等詳細について案内することになっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議の定期実施にて意見交換や、課題解決に対する検討機会を設けている。	職員全員が法人の委員会活動(ケアプラン・教育研修・感染症・苦情接遇・レクリエーション等)に所属して役割と責任を持ち、また3年目に入り、職場会議では運営に係る意見も挙がるようになっていきます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による個人面接を実施している。また、個人の可能な就労条件に応じた雇用体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月に1度の勉強会を実施している。また実践者研修など、法人外研修機会をもっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや行政と、必要な情報についてやりとりができる体制をとり、運営やサービス検討に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に基本情報を収集・把握し、生活上のニーズ把握に努めている。初期の関わりを十分にもち、安心確保・関係構築・変化兆候に気付くことができる状況をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、ご家族の抱える介護上の問題や不安を確認し、その緩和や解決が出来るような支援内容検討を行うように努め、必要時に相談しやすい関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階において、ご本人やご家族が今、何を必要としているのかを把握し、ご本人の状況に見合った支援方法を検討し、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持っている力、できること、に重点を置き、その活用をしながらの生活支援を起点とした関わりを大切にして、相互関係によって生じる力を活用した時間を共に過ごすように心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を取り巻く家族の存在意味を認識し、その家族がもたらす効果を大切に、家族と共に利用者本人を支援していく姿勢をもっている。ご家族と本人を含めた定期的話し合いをし、意向を反映させた支援方法検討を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の、友人や近隣の人など、本人が築いてきた対人関係維持ができるよう、その方たちとの面会機会を推奨している。またご家族の協力を得ながら、今までの習慣を継続できるような支援を行っている。	面会時間の制限はなく、近隣から「いるって聞いたけど～」と気軽な訪問があり、頻回な家族来所と併せて月100名余の訪問者数を誇っています。囲碁や将棋、編み物といった趣味を続けている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の関係構築がなされるよう、必要な場面に職員が介入している。利用者同士の関係性を十分に把握し、心地よく暮らすことができる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へサービス移行をされた場合、次のサービス利用がスムーズに行えるよう、事業者間で連携をとり、本人や家族支援に努めている。利用者支援が終了したケースにも、その後のご家族との関係は継続し、必要な相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時及び以降の経過に添って生じるニーズ把握に努め、日々の暮らしの中で共に関わることでその人が望む、その人らしい生活の在り方について検討している。	入居にあたっては(受入れてもらえる場合に限り)、家庭訪問をおこない敷居のあるなしまで確認、家族の困っていることを傾聴して、本人本位に暮らしをもらうための準備を丁寧におこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族を含め、利用者本人に関わる人たちとの関係を深め、本人に関する今までの暮らしや考えを知る機会をつくり、暮らしやすさに反映できるような情報収集を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化し得る心身の状態を常に意識し、今の生活状態の把握と、定期的なアセスメントを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なサービス担当者会議の実施や、状態変化時の面談を実施し、その時に生じたニーズを知り、それに応じた支援方法の検討を行っている。また、それをケアプランに反映させている。	モニタリングは3ヶ月に1回見直しています。ケアの具体性を伝えるため介護支援の評価はカードックスを用いたプランも作成され、医療のかかわり体制が盛り込まれていることを書面確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりや観察した事柄、ケアの工夫や考えを記録に残し、職員間で検討材料とし、その過程を共有している。また、得られた情報を基に適切なケア内容検討と計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況変化やニーズ変化によって必要となるサービス提供内容の見直しを行っている。その上で、事業所内で抱え込み過ぎず、必要に応じたサービス提供の場や手段を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて行政や地域包括支援センター等と連携を取り、今必要となるサービスについての検討をしている。また、入所前に繋がっていた地域の資源を知り、継続的な関わりが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診が受けられる体制がある。また、ご本人の必要に応じた医療や定期検診受診もなされている。	協力医への受診支援は職員がおこない、日々の心身状態をFAXで医療関係者に流して連携を図るほか、作業療法士、理学療法士がリハビリに、薬剤師が薬の管理に訪れ、盤石の健康管理、医療体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、健康チェックが行われ、その中で気づきは職場内看護師に相談できる体制がある。同時にかかりつけ医の看護師とも情報共有をし、医療と連携した対応が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室との連携を持つことや、利用者の入院時には入院先を訪問し、そこでの情報を職場内で共有している。そして、情報に応じた退院後の受け入れや、必要なサービス検討に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り支援の前段階から、ご家族と急変時や終末期支援の意向確認をし、面談の場を設けている。移行に基づく形での対応を職員間で検討し、それに応じたプラン立案のもと介入できるよう努めている。	本年度は7名、開設から3年間で20名ほどの看取りを経験しています。契約時に家族に方針を説明のうえ、身体状況の変化に応じて看護師や医師、家族も加わり再アセスメント、プランの立て直しと、看取りに係る流れができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や職場会議を用いて、急変時や事故対応の方法を学習できる機会を設けている。関連したマニュアル作成をし、個々が必要に応じて自身の知識を再確認できる状態をつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の施設内防災訓練を実施している。内容は、日中や夜間の設定などをし、様々な形を想定できるよう工夫をしている。また、推進会議でその報告をし、地域との協力体制を確認している。	年2回の法定訓練は本年度は津波ではなく風水害で想定していますが、夜間想定は未だおこなったことがありません。地域の訓練には職員が出向き、備蓄や消火器の在処を確認できています。	近くの法人本部に備蓄があるとのことでしたが、各事業所で配分したときに事業所分として何日分あるのかを改めて確認し精査することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の全体像を把握するよう努め、その人の生活背景を尊重した関わりを持つことを大切にしている。個々に応じた言葉掛け方法を取り入れ、生活の場として馴染みやすく、プライバシー維持がされ、安心して生活できる環境を作っている。	ソファの裏側、ベランダで壁にもたれてと、それぞれの利用者が過ごしたい場所、過ごし方があるよう、居場所づくりに心配りしています。声の掛けられ方にも好みがあるため、一人ひとり変えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に介護担当が配置され、担当を中心に個別ニーズを定期的に話し合い、思いを表出する場をもっている。また本人が自己決定できるよう意向選択しやすい提案をし、思いを引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活パターンを把握し、本人ペースが保たれるよう生活スケジュールへの促しをしている。職員からのきまりという対応をせず、その日の気分や心身の状態に応じた支援ペースを考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力を得ながら、その人らしさや長年のこだわりを継続できる身だしなみを整えられる様に支援している。衣類選択介入時は、ご本人の意向を聞きながら、一緒に行うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから、下準備、片付けの過程において、その人ができる部分を知り、それまで行ってきた生活行為の維持・活用のためにも職員と共同作業での食事準備に取り組んでいる。	得意なことを生かせるよう調理作業には利用者にも加わってもらい、生活リハビリと暮らしの愉しみにつなげています。食材の買い出し、外食レク、デッキでさんまを骨つきのまま焼いて食べる調理レクと飲びが満載です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による食事内容の検討や、摂食状況による食事量検討を行っている。また、その人の状態に応じ、必要な食事や水分の促し方を検討しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の自立度に応じた口腔ケアへの介入方法を検討し、その適正を確認しながら口腔内清潔が保たれるよう支援している。また、必要に応じて歯科往診による指導を受け、それを意識した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の自立度に応じ、その中でより自然な排泄方法で支援できるよう心掛けている。排泄のパターン把握により失敗頻度を減らしたり、不快感の少ないおむつ使用方法で対応をしている。	トイレの壁紙はバラ、アイビー、オオデマリとそれぞれ異なる模様で居心地を高めています。「なるべくトイレで」をめざし、オムツ利用についてはなるべく減らすことを考え、また使用オムツも検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の排便パターンや習慣を把握し、活動量や水分摂取量を把握と維持に努め、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴対応で、職員の必要に応じた介入を得て、気持ちよく実施できるよう配慮している。その日に体調や意向に応じ、入浴日は随時調整している。	移動式の浴槽で、右からでも左からでも脚を入れることができます。換気扇に浴剤の色がついてしまったことを契機に、現在はゆずやしょうぶといった自然のもの、時節に合ったものしか使用していません。	足し湯については、改めて家族の意向ならびに湯を入れ替える事業所の負担等検討することを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息バランスを個々に把握し、その人ごとのパターンを保ち、就寝時間も個々に対応している。安心して休める居室環境調整と就寝準備介入を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導を受けながら、薬剤情報を確認のもと、確実な服薬支援や、投薬による変化の観察ができる体制をつくっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意なことや集団の中で担う役割を把握し、持っている力を活かし、生きがいや張り合いを持って生活できるように支援している。レクリエーション内容も習わしや、季節感ある内容とし、より関心や楽しみを高められるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出や職員との買い物機会の確保、集団もしくは個人での戸外散歩など、希望に応じた外出機会を設けている。また、年に数回、季節に合わせた外出レク機会を設定したり、地域行事に出かけてもいる。	レクリエーション委員会が中心となって企画する外出レクは年に4回あるほか、花桃の里では蕎麦を堪能したり、お弁当を持参してのピクニック、向かい側にあるファーストフード店も「ちょっとおでかけ」に便利な地域資源となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に小遣いは職員がお預かりしているが、希望に応じて出金し、使用できる体制をとっている。また、その出納は記帳し、ご家族に毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信における制限はしていない。希望があれば電話の介助をしたり、個人で携帯電話の使用も可能としている。手紙のやりとりも、必要な準備を手伝い、郵送物は必ず本人のもとで開封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃計画に基づき、環境整備を実施している。気候に応じた空調管理をし、生活空間が快適に保たれるよう努めている。また、共有空間には、その季節を感じられる作品を飾りを作成し、掲示している。	白い壁には樹木の形の文字盤に針は鳥と自然をモチーフにした時計がかかり、シャンデリア風の照明はオレンジの光で暖かさを印象付けています。折り紙モビールや折り紙花の作品がたくさん飾られ、日々のアクティビティの豊富さが伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、その人の席を設けると同時に共有のソファースペースを確保。一日を通して自分の部屋は、その人の活動・休息ペースに合わせて使用できる状態にある。また、ご利用者様どうしでの部屋の行き来も可能である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用してきた家具や大切にしているものの設置は、本人やご家族の意向に合わせて行える。また、思い出ある写真や作品を居室に飾るなどし、自身のスペースとしてくつろげる空間づくりができるようになっていく。	自宅を売却した為大きな家具が運ばれている人、酸素治療器を置く人、折り紙の花を壁一面ちりばめている人、家族から生花が届く人、アイドルのポスターを配する人、その人その人の居室となっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・各所の手すり設置がなされている。その人がより自分自身の力で生活できるように生活動線を検討したり、安全に配慮した物の配置方法をとっている。		